

小さな生命を 守りたい!

ねこさと ~nyamuzucocompany~

猫ブーム到来により、猫の飼育件数が増加している一方、飼い主のいない野良猫や殺処分される猫が絶えない現実をご存じだろうか。そんなかわいそうな猫たちを救うべく立ち上がった江南市・大口町・扶桑町登録団体ねこさとの活動取材した。

跡を絶たない 里親を待つ猫たち

ねこさとが大口町をはじめ、ボランティア団体として正式登録されたのは2013年のこと。しかし、10年ほど前からコンソツ活動をしてきたというのは、ねこさと代表の野田ひとみさん。生まれ育つ中、動物はいつも身近な存在だったという野田さんは幼少期に人間の身勝手な理由で保健

所や動物愛護センターに引き取られるイヌやネコが殺処分されると知ってショックを受け、「自分の飼育している犬猫だけでなく、何かひとつでも多くの命をつないでいきたい」と保護した猫の新たな飼い主を見つめる里親探しの活動を始めるようになった。しかし、飼い主不在の猫がなくなることはない。野田さん一人の力では限界があった。ところが、野田さんと同じように活動している人がやませ動物病院には他にもいたのだ。それ

まで同じ志を持ちながらも個々で活動していたメンバーが集結。やませ動物病院院長も協同ボランティアとして加わり、動物ボランティア団体ねこさとnyamuzucocompanyが結成され、行政や動物基金の援助も受けながら、「一匹でも多くの不幸な猫を減らす活動を始めるようになった」。

現在、ねこさとでは月に1回のペースで譲渡会を行っている。すでに74匹の猫を里親に譲渡してきたが、1回の譲渡会で里親が決まるのは1〜2相と以外に少ない。「人間と猫がともに幸せに共存していくには、猫を迎え入れるのを決断するのは慎重なくらいがちょうどいい」と野田さんは言う。ねこさとの譲渡会では気に入った猫を見つけたからといってすぐに引き渡すことはしていない。ねこさとが定める譲渡条件を満たしていることが第一条件となる。

そして、里親候補が譲渡条件を満たしているか判定されると、1か月間トライアル期間が設けられる。保護猫を迎え入れた家庭も猫自身も、今後猫が生涯を閉じるその日まで、ともに家族として過ごすことができると確信した時点で、正式に譲渡が成立するのだ。譲渡後もねこさとでは様々なアドバイスや相談に応じるアフターフォローも行うっており、猫を通して新たな輪が広がることもあるという。

現在、ねこさとメンバーの渡辺さんもそのひとりだ。すでに1匹の猫レオナルドくんを飼っていた渡辺さんだったが、シェルターで保護されていた猫あんずちゃんを家族として迎え入れた。あんずちゃんは、トイレの場所がすぐに覚えてくれたものの、警戒心が強く、なかなか体を触らせてはくれなかったという。しかし、猫の習性を理解していた渡辺さんは、猫が慣れてくれるのをひたすら待ち続けた。そうして2年経った頃、ようやく



ヨロヨロ

あんずちゃんのほうから渡辺さんに寄り添い、甘える素振りをみせるようになったのだそう。「もう、うれしくて、ヤッター!!っていう気持ちでした」と渡辺さん。今では家の中でお気に入りの場所を見つけ、くつろいでいる猫の姿に癒される毎日なんだそう。



渡辺さんのネコちゃん
あんずちゃんとレオナルドくん

野良猫から 地域猫として生きる 猫たち

ねこさとにはもうひとつ、不幸な猫を救うべく活動していることがある。へ地域猫」という言葉をこぞ存じた

ろうか。飼い主のいない猫を私たちは大抵「野良猫」と呼んでいる。野良猫の姿を見たとき、あなたはどのように感じますか?

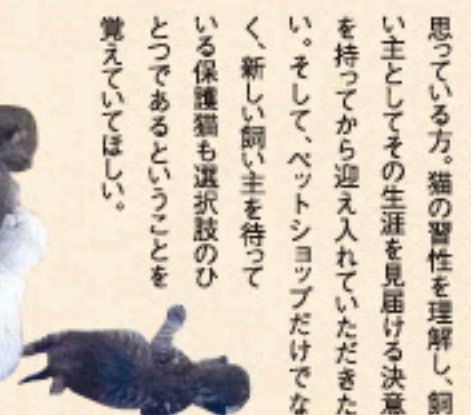
猫は1年に2〜3回出産する。1匹のメス猫は1回の出産に約5匹の子猫を出産。出産したうちのおよそ半数はメス猫であり、子猫は生後6か月を過ぎると出産するため、1匹の猫が出産することにより、1年後には50〜70匹の猫が増えているという概算になるのだ。これでは不幸な猫を減らすことは不可能に近い。そこで今いる猫を1代限りとし、地域猫として見守っていくのだ。子猫が産まれなくなるだけでなく、発情の鳴き声やケンカが減ったり、糞尿のにおいが軽減、病気の予防効果もある。一度手術した猫は再び捕獲してしまわないよう、手術済みの猫は耳先を小さくカットした後、また捕獲した場所に戻され、地域猫として余生を送る。ねこさとでは現在までにこのTNR活動を145匹の猫に行ってきた。

この地域猫活動は野田さんらのようなボランティアだけの力では決して成立することはできない。行政と地域住民との連携によって成り立つことができるのだ。

猫が苦手だという人もいるだろう。しかし、これらの小さな命が粗末にされることのないよう、どうかこの地域猫活動に理解を示していただきたい。

そして、すでに猫を飼っている方は、細心の注意を払いながら責任を持って、最後まで猫との生活を楽しんでいただきたい。特に注意したいのが猫の脱走。迷子、交通事故、感染症、猫同士のケンカ、近所トラブルの原因になるので、完全室内飼いの徹底をお願いしたい。

そして、これから猫を飼いたいと思っている方。猫の習性を理解し、飼い主としてその生涯を見届ける決意を持ってから迎え入れていただきたい。そして、ペットショップだけでなく、新しい飼い主を待っている保護猫も選択肢のひとつであるということを知ってほしい。



ねこさと
~nyamuzucocompany~

【お問い合わせ】
TEL_090-8610-2948
(代表 野田ひとみ)

【ねこさと譲渡会 譲渡条件】

- 家族全員が飼育に賛成で、ペット飼育可の住居にお住まいの方
- 終生完全室内飼育(脱走対策の徹底)をしいただける方
- クリチン・避妊去勢・今後の健康管理も含め必要な医療を責任もって行っていただける方
- 譲渡後も面会・連絡ができる方(負担にならない程度で近況報告をお願い)
- 譲渡誓約書に署名・捺印いただける方
- 猫は面談後お顔が決まったら、お届けに伺う。その際飼育環境を見せていただける方(飼育環境のアドバイス等もさせていただきます)
- 猫の負担やアフターフォローを考慮し、こちらより1時間くらいまでの方

【展示】

- かつばちゃん写真展
- 震災で消えた小さな命展
- うちの子自慢写真展

「うちの子自慢写真展」

〒480-0146
送付先 丹羽郡大口町余野3-212-1
ねこさと事務局

飼い主とペットの名前と一言添えて送付してください。イベント期間中、会場で展示します。
9月20日(火)必着

【講演会・フォーラム】

- 「災害時大切なペットを守るには」
震災で消えた小さな命展
代表うさぎさんによる講演会
9月24日(土) 15:00~16:30
- 「正しく猫ブーム」
9月25日(日) 15:00~16:30
やませ動物病院院長
山瀬新吾
ねこさと~nyamuzucocompany~
代表 野田ひとみ

9月24日(土)
13:00~18:00

9月25日(日)
10:00~18:00

【場所】
大口町健康文化センター
多目的室

入場料 無料

大口町承認元気なまちづくり事業

**ねこさとまつり2
2016**

~正しい猫ブームとは?~